

観光英語（14）：島根県大田市、山口県萩市、福岡県宗像市の 観光名所に見られる案内板の英語

福島 一人

Tourism English (14) : The English Found on Signs in Popular Tourist Sites of Ooda City in Shimane Prefecture, Hagi City in Yamaguchi Prefecture, and Munakata City in Fukuoka Prefecture

Kazundo Fukushima

Abstract

Because the Tokyo Olympic & Paralympic Games are to be held in 2020, more and more foreign tourists are expected to visit Japan. The English signs in Japan's popular tourist sites have to be increased in number and improved in quality so that the tourists will be able to enjoy fruitful and profitable trips to those sites.

This paper, as a case study, examines the English signs found on signs in the popular tourist sites, such as *Iwami-ginzan* (-silver mines), the *Shoukason-juku* (-private school), the *Hagi-hansharo* (-reverberatory furnace), and the *Munakata-taisha* (-grand shrine). All of them are now inscribed on the World Heritage List by UNESCO.

The signs discussed here are again those which indicate the general summarized information about these sites. If there are no such signs or if descriptions on such signs are thought to be inadequate, the writer's suggestions will be added.

The methods of writing the explanatory notes and Japanese names of the places, persons, or things will in principle follow Fukushima (2015.7), (2015.9), (2016.7) and (2017.1).

1. はじめに

2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、さらなる外国人観光客の増加が見込まれ、日本の観光地においては、特に国際語である英語案内板の質的・量的^{註1)}充実が望まれるようになってきている。このことは、日本人観光客の増加にもつながるであろう。

事例報告として、本稿で考察する案内板は、当該観光名所の「包括的説明」を行う英語案内板（「総合案内板」）である。現地のものが不十分、または、存在しない場合、加筆・修正などの提案を行う。

世界遺産登録されている、島根県大田（おおだ）市「石見銀山」の「総合案内板」について提案を行い、次に、やはり世界遺産に登録されている、山口県萩市の「松下村塾」、「萩反射炉」、福岡県宗像市「宗像大社」のものについて検討を加える。

綴字面などを含めた日本語の英文字表記法については、基本的には、福島（2015.7）、（2015.9）、（2016.7）、（2017.1）で挙げた提案に従う。しかし、本稿からは、日本語名詞句の構成素の2語以上

による説明にもハイフンを入れ、“-*taisha* (-grand shrine)” のように記すことを提案する。

本稿中で、本稿執筆者の提案部分は太字で記す。原文中のアンダーライン、文末の赤い数字は本稿執筆者による。

2. 島根県大田（おおだ）市の「石見銀山」、山口県萩市の「松下村塾」、「萩反射炉」、福岡県宗像市の「宗像大社」の案内板

福島（2017.1）、（2017.7）、（2018.1）では、「世界遺産」に登録されている京都市と周辺の観光名所である、「清水寺」、「鹿苑寺」、「慈照寺」、「龍安寺」、「仁和寺」、「賀茂御祖神社」、「賀茂別雷神社」、「二条城」、「延暦寺」の案内板に検討を加えてきた。そして、「天橋立」、「鳥取砂丘」の案内板について提案を行ってきた。本稿では、中国地方、九州の「世界遺産」登録されている「石見銀山」、「松下村塾」、「萩反射炉」、「宗像大社」の総合案内板について検討を加える。これら「世界遺産」の案内板は、「古都京都」の世界遺産登録された名所の案内板のように「世界遺産登録」、包括的説明を行う「本文」、「登録年月日」が整然と一枚の案内板にまとめられたものではなかった。

これまで執筆者が提案してきたものと同様、本稿でも、「包括的説明」を行う案内板（「総合案内板」）について論じる。尚、提案する案内板の画像は2017年12月以後に執筆者自身が撮影したものである。

2. 1 大田市「石見銀山」

1



2



石見銀山は、島根県大田（おおだ）市に存在する。バス停留所の案内板によれば、大田市からバスで、「大森代官所」まで26分、「大森」まで28分、「世界遺産センター」まで33分で到着できるそうである。バス停留所「大森」で降り、「石見銀山公園」を出発点とした、「間歩（まぶ）」と呼ばれる坑道と、「大森町の町並み」が代表的な観光スポットである。「間歩」はいくつかあるが、出発点の「石見銀山公園」から約2.5kmの「龍源寺間歩（りゅうげんじまぶ）」（画像1）が最も有名である。「大森町の町並み」の景観（画像2）は、「石見銀山公園」から約0.7kmで楽しめる。

画像3の「現在地」を示した「石見銀山遺跡案内図」が複数箇所に見られる。しかし、それらに説明文は入っていない。せめて、出発点として有名な「石見銀山公園」に見られるものには、「石

3



見銀山遺跡」を表題とした日本語・英語説明を加えた総合案内板を設置するべきであろう。英語説明は福島(2017.9)などで提案しているように250語程度にするべきである。「簡単な歴史」、「龍源寺間歩」、「大森町の古い町並み」、「世界遺産登録物件」を概略するべきであろう。

総合案内板の提案には、現地の案内板や、石井隆之(2009)、ブリタニカ・ジャパン編(2013)、Wikipedia(2018.2.13参照)の記述を参考にする。

その前に、「石見銀山遺跡」の主要観光スポットである、画像1の「龍源寺間歩(りゅうげんじまぶ)」で見られた案内板(画像4)について検討を加える。

「間歩(まぶ)(坑道)」内部に見られる、後で挙げる画像6の案内板によれば、「間歩」には、「龍源寺間歩」のほかに「永久(えいきゅう)間歩」、「大久保(おおくぼ)間歩」、「新切(しんぎり)間歩」、「新横合(しんよこあい)間歩」が江戸時代中期以後存在したそうである。前に述べたが、「石見銀山公園」から約2.5kmにある、画像1の「龍源寺間歩」が、内部の主要通路が画像5のように整備され、観光には最も適している。

4



5



画像1の付近に画像4の案内板が存在する。日本語及び英語説明は以下の通りである。

原文のふりがなは()で表示する。

龍源寺間歩(りゅうげんじまぶ)

江戸中期以降に開発された間歩(まぶ)(坑道(こうどう))で、「御直山(おじきやま)」と呼(よ)ばれた代官所(だいかんしょ)直営(ちよくえい)の操業地(そうぎょうち)にあった坑道で、「御直山」の中でも銀山(ぎんざん)を代表する「五か山」の一つです。

坑口(こうぐち)の横には番所(ばんしょ)(管理(かんり)小屋)を設け、四ツ留(よつどめ)と呼ぶ坑木(こうぼく)を組

福島 一人：観光英語（14）：島根県大田市、山口県萩市、福岡県宗像市の観光名所に見られる案内板の英語

み合わせて抗口としています。坑道は、ほぼ水平に約 600m 堀（ほ）り進んでおり、高さ 1.6～2m、幅（はば）0.9～1.5m、採掘（さいくつ）と同時に鉱石運搬（うんぱん）の幹線坑道としても使ったようです。内部の岩質（がんしつ）は角礫凝灰岩（かくれきぎょうかいがん）、坑道の壁面（へきめん）や天井（てんじょう）にはのみ跡（あと）が残り、鉱脈を追って掘り進んだ小さな坑道（ひ押し坑）や上下方向に延（の）びる斜坑（しゃこう）を見ることができます。排水（はいすい）用の坑道でもあった下の「永久（えいきゅう）坑」へ降（お）りる垂直（すいちよく）の堅坑（たてこう）も残っています。坑道は入口から水平に約 630m 続いており、現在 157m の区間を公開しています。

Ryugenji Mabu Mine Shaft

This mabu (mining tunnel) was developed in the 17th century. Chisel marks are visible on the walls of the lengthy section.

日本語説明について、漢字の多くに（ふりがな）が振られている。特に、「間歩」などは普通の日本人にも読めず、観光客に親切な案内板と言えよう。但し、振り仮名が多過ぎると思える。日本語を学習する外国人のことを強く意識した結果であるとも考えられる。尚、外国人に親切なことは、入場料についても言える。^{註2)}「龍源寺間歩は、大森町の町並みと共に石見銀山の代表的な観光スポットと言えるでしょう。」という内容の日本語説明を加えるべきであろう。日本語説明文で、段落を変える場合 1 文字空けるべきである。

英語説明について、簡略化し過ぎている。（奇妙なことに、「石見銀山公園」と「龍源寺間歩」間の「渡辺家遺宅」には日本語説明、かつ、十分な英語説明がなされている。）以下の 5 文に増やすことを提案する。

Ryuugenji-mabu (-mining tunnel)

The Ryuugenji-mabu is one of the five silver mining tunnels developed after the middle of the Edo-jidai [-period], together with the Eikyuu-, the Ookubo-, the Shingiri-, and the Shin'yokoai -mabu.

It is the most famous of the five mabu. The entire tunnel is 650m long, of which 157m is open to the public. In some sections, chisel marks are visible on the walls.

The Ryuugenji-mabu, together with the old Oomori townscape, is safely said to be the representative tourist spot in Iwami-ginzan.

第一文は日本語説明の「江戸時代中期以降」に合わせ、“**after the middle of the Edo-jidai [-period]**” とするべきであろう。第二文は、「坑道の壁面や天井にはのみ跡が残り ...」に合わせ、“**In some sections, chisel marks are visible on the walls or the ceilings.**” とするべきであろう。説明が少な過ぎると思われる。原文の第一文と第二文の情報に「間部には 4 つあり、最も有名な「龍源寺間歩」は入り口から水平に 650m 続いており、現在 157m の区間を公開。」を加えるべきであろう。

英語説明では、段落の始めは、これまでの福島の指摘に従い、また、現在設置されている京都の世界遺産に登録されている名所の案内板にも従い、3 文字分スペースを空ける。

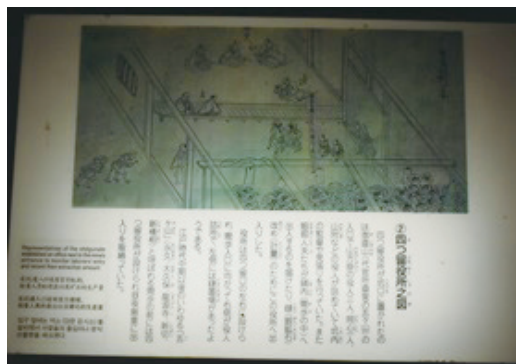
「龍源寺間歩」の、観光客に公開されている 157m の坑道内の出口付近約 50m の壁には、15 枚の電照案内板が設置されている。坑道内の構造や鉱夫たちの具体的作業などが説明されている。日本語説明は詳しいが、英語説明は「簡略化し過ぎている」と感じられる。

「石見銀山絵巻二巻」のうち上巻から坑道内作業の様子を 15 枚の案内板で説明されている。そのうち最初から 11 枚の案内板に①、②、③、、と番号がつけられている。原文中のアンダーライン

6



7



は本稿執筆者による。

①から④について検討を加える。画像6は①、画像7は②の案内板である。

原文の日本語説明には、画像4の案内板と同様、かなり振り仮名がふられており、日本語学習者に親切と言える。原文は縦書きである。振り仮名は（ ）で記す。

① 四つ留之図（よつどめのず）

この電照板（でんしょうばん）は島根県指定文化財（しまねけんしていぶんかざい）（古文書（こもんじょ））「石見銀山絵巻二巻（いわみぎんざんえまきにかん）」のうち上巻から坑道内作業の様子を十五枚の電照板に仕立てたものです。

絵巻（えまき）は江戸時代（えどじだい）の後期（こうき）に描かれたもので当時の銀山山内（さんない）の様子や風俗を知る上で大変貴重な巻物（まきもの）です。

① の巻物の画像の下のみ、この部分に対応すると思われる英語説明が、とても簡略化されて記されている。

This picture scroll from the Edo period depicts how miners worked in the Iwami Ginzan Silver Mine in the 17th century.

これまでの福島の提案に従い、“the Edo-jidai [-period]” とする。本稿では2語以上で構成素を説明する場合の、“（ ）” 中にもハイフンを入れ、“Iwami-ginzan (-silver mine)” とする。

日本語説明では、概略、坑道のことを「間歩（まぶ）」とか「山（やま）」と言ったこと、坑道の入り口を「四つ留」と言い、丸太の木を組んで土石の落ちるのを避けるためにつくった、ことが記されている。

英語説明、中国語説明、韓国語説明が記されている。

英語説明は以下の通りである。簡略化し過ぎているように思われる。

Timber was used to make a safe entrance protected from falling rocks and soil.

② 四つ留役所之図（よつどめやくしょのず）

日本語説明の概要：四つ留役所（よつどめやくしょ）が御直山（おじきやま）（代官所直営の五ヶ山）入口に置かれていた。江戸中期以後の「五ヶ山（ごかざん）」には、「永久（えいきゅう）」、「大久保（おおくぼ）」、「龍源寺（りゅうげんじ）」、「新切（しんぎり）」、「新横相（しんよこあい）」と呼ばれる間歩があった。

福島 一人：観光英語（14）：島根県大田市、山口県萩市、福岡県宗像市の観光名所に見られる案内板の英語

英語説明は以下の通りである。“shogunate”の“o”の上には長音記号が存在する。

Representatives of the shōgunate established an office next to the mine's entrance to monitor laborers' entry and record their extraction amount.

「(石見銀山の) 鉱山労働者」、と特定されるので、定冠詞を加える。「採掘された銀の両を記録するため」、と平易にし、“**the laborers' entry and to record the quantities of silver extracted**”とすることを提案する。

枚数が制限されているので、残りの13枚について記述することはできない。画像を入れずに③、④についてのみ概略する。

③ 御代官様銀山御見廻之図（おだいかんさまぎんざんおみまわりのず）

日本語説明の概略：御代官の五ヶ山の見廻りは年数回行われたようだ。鉱石の採れ高、坑内の様子を役人から聴取。

The local magistrate would conduct inspections several times a year.「過去の習慣を表す」という作成者の意図は理解できるが、案内板などでは単純過去の方が一般的であろう。“**conducted**”とする。

④ 四つ留役所前柄山捨場（よつどめやくしよまえからやますてば）

日本語説明の概略：「柄山（からやま）（捨石）捨て場（すてば）」に良質の鉱石が交じっていることがある。山内の女や子供、非番の人夫たちがそのような鉱石拾いをするようになった。

Dumping the rocks that contained no ore

日本語の概略に合わせ、「良質の鉱石が交じっていることがある。」とし、“**It was possible that some rocks dumped contained ore of good quality.**”とする。

以上挙げた現地の案内板や、石井隆之(2009)、ブリタニカ・ジャパン編(2013)、Wikipedia(2018.2.13参照)を参考に、「石見銀山公園」に見られる画像3に加えるべきと思われる「石見銀山遺跡」の総合案内板を提案する。福島(2017.9)などの提案に従い、英語説明を250語程度に収める。

「世界遺産」ということで、知名度は高い。一日で見所すべてを訪れることは不可能である。代表的な見どころを挙げ、観光客の再訪問を期待するべきであろう。従って、福島(2017.9)に従えば、現地としては、以下の項目順に記すべきと考えていると推測できる。

- 地理的位置
- 歴史
- 現状（見所、世界遺産登録物件）

上記に従い、画像3に以下の日本語説明と英語説明を加えることを提案する。段落の書き出しでは、日本語説明では1文字分、英語説明では3文字分スペースを空ける。

石見銀山遺跡は、2007年に「石見銀山遺跡とその文化的景観」としてUNESCOの「世界遺産（文

化遺産)」に登録されています。

島根県のほぼ中央に位置し、400年の歴史を持つ世界有数の銀鉱山遺跡です。

石見銀山は江戸時代に、生野銀山と共に主要な銀山になりました。1533年に銀の製錬に成功して以来産出量が増加し、戦国大名によって争奪が繰り返されました。豊臣秀吉が直轄した後、江戸時代には代官を置いて直轄領として支配しました。1601年以来銀の生産が激増し、人口が増加し、石見銀山周辺は繁栄しました。しかし、17世紀後半に入ると、次第に衰微しました。明治時代に入り1887年に藤田組が経営に着手しましたが、大正時代末期に廃山となりました。

石見銀山遺跡の五つの間歩のうち、龍源寺間歩が最も知られています。龍源寺間歩（ここから2.5km）は、大森町の町並み（ここから0.7km）と共に代表的な観光スポットです。

世界遺産登録物件は、(1) 銀鉱山跡と鉱山町、(2) 石見銀山街道、(3) 鞆ヶ浦（ともがうら）、沖泊（おきどまり）という港町、温泉津（ゆのつ）という港町の伝統的建造物群です。

英語説明は以下を提案する。表題を除いた本文は5段落14文、251語に収めた。画像1、2を添付する。画像1については人物をはずす。

Iwami-ginzan-iseki (-silver mine site)

In 2007, the *Iwami-ginzan-iseki* ^{註3)} was inscribed on the World Cultural Heritage List as “*Iwami-ginzan and its Cultural Landscape*” by UNESCO.

The *Iwami-ginzan-iseki* is located in Oda City almost in the center of Shimane Prefecture. It is one of the world's leading silver mine sites with a history of 400 years.

During the *Edo-jidai* [-period], along with *Ikuno-ginzan* (-silver mine), *Iwami-ginzan* was one of the two most famous silver mines. Since the refinement of silver became successful in 1533, the amount of produced silver increased. Many *daimyo* in the Warring States period scrambled for the silver. After Toyotomi Hideyoshi, the Tokugawa shogunate had *Iwami-ginzan* under its direct control. Since 1601 the production of silver had increased markedly, there was a marked increase in population as a result. Although *Iwami-ginzan* and its environs flourished temporarily, its prosperity fell into decline during the 17th century.

The *Fujita-gumi* [-company] began the management of *Iwami-ginzan* in 1877 during the *Meiji-jidai*, but it was abandoned completely during the *Taishou-jidai*.

Of the five *mabu* (mining tunnels) in the *Iwami-ginzan-iseki*, the *Ryugenji-mabu* is now the most visited. The *Ryuugenji-mabu* (2.6km from here) and the old-style street of Oomori Town (0.7km from here) are the representative tourist spots of the *Iwami-ginzan-iseki*. They evoke an atmosphere of those flourishing days of *Iwami-ginzan*.

The registered properties by UNESCO are (1) the *Iwami-ginzan-iseki* and its mining town, (2) the *Iwami-ginzan-kaidou* [-highways], (3) the neighboring ports called Tomogaura and Okidomari, and the

traditional groups of buildings in the port town called Yunotsu.

Entrance to the *Ryuugenji-mabu*



Old-style Street in Oomori Town



2. 2 萩市の世界遺産

萩市の「世界遺産」は、「世界遺産 明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」と言う。「恵美須ヶ鼻（えびすがはな）造船所跡」、「萩反射炉」、「萩城下町（萩城跡）」、「大板山（おおいたやま）たたら製鉄遺跡」、「松下村塾」の5カ所が挙げられている。「大板山たたら製鉄遺跡」は、松下村塾がある松陰神社から車で40分くらいかかり、観光客の数は少ない。

8



9



「萩城下町（萩城跡）」では発見できなかったが、あとの4カ所では、画像8、画像9の如く「世界遺産指定」の文体、記述内容がほぼ共通する案内板が存在した。

つまり、8の日本語説明では「松下村塾は、世界遺産一覧表に記載された明治日本の産業革命遺産の構成資産の一つである。....」、9では「萩反射炉は、世界遺産一覧表に記載された明治日本の産業革命遺産の構成資産の一つである。....」であり、残りの部分は共通している。京都市の「世界遺産登録」の

案内板と日本語説明文は共通する。しかし、英語説明文中では、京都市のものと異なり、「松下村塾」、「萩反射炉」など表題に相当するものが主語とされていない。

8の「松下村塾」の案内板については、下の地図の部分を除いて以下の通りである。アンダーラインは本稿執筆者による。

世界遺産
明治日本の

産業革命遺産

製鉄・製鋼、造船、石炭産業

松下村塾は、世界遺産一覧表に記載された明治日本の産業革命遺産の構成資産の一つである。

19 世紀の半ば、西洋に門戸を閉ざしていた東洋の一国は、海防の危機感より西洋科学に挑戦をし、工業を興すことを国家の大きな目標として、西洋の産業革命の波を受容し、工業立国の土台を築いた。明治日本の産業革命遺産は、1850 年代から 1910 年の日本の重工業（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）における大きな変化、国家の質を変えた半世紀の産業化を証言している。

第一段落について、産業革命との関係がわからないので、「産業革命をもたらした多くの人物を輩出した」という内容を補うべきである。

第二段落は、明治日本の産業革命遺産の概説となっている。

段落の始めは一文字スペースを空ける。文語調過ぎるので、アンダーライン部を以下のようにすることを提案する。

「一国である日本」、「危機感をもち」、「工業化する」、「大きな変化をもたらし」、「示している」とする。

一方、英語説明は、以下の通りである。

World Heritage
Sites of
Japan's Meiji
Industrial
Revolution
Iron and Steel, Shipbuilding
And Coal Mining

One of a series of properties that form a World Heritage Site that reflects the rapid industrialization from the 1850s to 1910, founded primarily on iron and steel, shipbuilding and coal mining. This successful industrialization was achieved in just a little over 50 years without colonization, and on Japan's own terms.

構成資産
松下村塾
Shokasonjuku Academy

英語説明について、「松下村塾」“the Shokason-juku”を第二段落で主語とし、以下の如くすることを提案する。各段落の書き出しは 3 文字分スペースを空ける。

表題について「松下村塾」小さな私塾であるので、“(private school)”と説明した方がよいかもしれない。本稿では 2 語以上で構成素を説明する場合の、“()”中にもハイフンを入れ、表題は、“*Shokason-juku (-private school)*”とすることを提案する。私塾と産業革命との関係がわかるよう

福島 一人：観光英語（14）：島根県大田市、山口県萩市、福岡県宗像市の観光名所に見られる案内板の英語

に説明を補足する。「植民地化されてしまうことなく」の意味を明示する。

From the 1850s to 1910 Japan succeeded in the rapid industrialization primarily in the spheres of iron and steel, shipbuilding and coal mining. The industrialization was achieved without having been colonized by other countries and on Japan's own terms.

The Shoukason-juku is one of a series of properties that form a World Heritage Site which helped this rapid industrialization. The Shoukason-juku produced many great people who played various important roles in influencing Japan's Meiji industrial revolution.

画像9に記されている「萩反射炉」についても、以下の地図の上の表題、日本語説明が「萩反射炉」で始まっていることを除けば、共通している。

構成資産

萩反射炉

Hagi Reverbaratory Furnace

萩の案内板も、京都市作成の案内板のように、「世界遺産登録」、「本文」、「登録年月日」を一括して一枚の案内板中に記すべきと思われる。しかし、京都市のものに見られる「包括的説明」に相当する「本文」は存在しない。他の「恵美須ヶ鼻（えびすがはな）造船所跡」、「大板山たたら製鉄遺跡」に見られるものも、同様である。

萩市の世界遺産に登録されている観光地では、昔から設置されている案内板が存在する。京都市にも昔から設置されているものが現在も存在する。しかし書き直しなどがされておらず、読みづらいものが多い。一方、萩の「松下村塾」、「萩反射炉」の案内板は定期的に手入れがされているようで、読み易い状態が保たれている。京都市では、比較的最近設置された「世界遺産登録」の案内板の「本文」にまかせ、昔からの案内板の手入れはされていないようである。

「松陰神社」、「萩反射炉」に昔から設置されている案内板について検討を加える。註4)

2. 2. 1 松下村塾

10



11



画像 10 の「松下村塾」はもちろん再建されたものであるが、「松陰神社」内にある。JR「ひがしはぎ」駅の南東、徒歩約 15 分にある。

画像 11 の案内板の日本語説明は以下の通りである。これらは福島 (2017.1)、(2017.7)、(2018.1) で挙げた京都市の案内板の「世界遺産登録」の記述に続く「本文」に相当するものであろう。 ※ 原文の振り仮名は、(ふりがな) で表す。原文中のアンダーラインは本稿執筆者による。

国指定史跡

指定年月日 大正 11 年 10 月 12 日

所有者 宗教法人松陰神社

所在地 萩市大字椿東

松下村塾 (しょうかそんじゅく)

松下村塾は、木造平屋建瓦葺 (もくぞうひらやだてかわらぶき) の小舎 (こや) で、当初からあった 8 畳の 1 室と、後に塾生達との労力によって増築した 10 畳半の部分とからなっている。

初め吉田松陰の叔父 (おじ) 玉本文之進 (たまきぶんのしん) がここからほど遠くない自宅で私塾を開き、松下村塾と名付けていた。ついで外叔 (がいしゅく) 久保五郎左衛門 (くぼごろうざえもん) がその名を継承し、子弟の教育にあたった。

安政 4 年 (1857) 11 月 5 日、28 歳の松陰がこれを継ぎ、幽囚室からここに移り講義を行った。翌安政 5 年 (1858) 11 月 29 日までの 1 年間塾生達とすごした場所である。

松下村塾では、身分にとらわれず集まった若者たちを、強い意志と誇りを持って行動する日本人に育てた。この若者たちの多くは明治時代に日本の産業革命に貢献した。

松下村塾は、世界遺産一覧表に記載された明治日本の産業革命遺産の構成資産の一つである。

英語説明は以下の通りである。表題を除いた本文は 4 段落 8 文、189 語からなる。文末の赤い数字、アンダーラインは、本稿執筆者による。

Shoka Sonjuku private school

The Shoka Sonjuku private school is a small wooden one-storey building with a tiled roof.¹ Originally, the school building consisted of one classroom with a tatami floor of 8 mats (approximately 13 m²).² Later, students helped to build an extension to the building, adding an area of 10.5 mats (approximately 17 m²).³

Initially, Shoin Yoshida's uncle Bunnoshin Tamaki opened a private school at his home, which was not far from the current location, and named the school Shoka Sonjuku.⁴ Gorozaemon Kubo took over the school and was involved in the education of young people.⁵

In the fourth year of the Ansei era (1857), on November 5, 28-year-old Shoin Yoshida took over the school and transferred it from the confined space in his uncle's house to the current location where he gave lectures.⁶ This is the place where Shoin spent one year with the students, until November 29 of the following year, the fifth year of the Ansei era (1858).⁷

The Shoka Sonjuku private school taught the youths who gathered there that, regardless of their social status, they were Japanese who could take action with determination and pride.⁸

各段落の書き出しでは、日本語説明、英語説明共に 1 文字分スペースを空けている。英語説明については、これまでの福島の指摘に従い、また、現在設置されている京都の世界遺産に登録されて

いる名所の案内板にも従い、3文字分スペースを空けることを提案する。

「松下村塾」の日本語説明とほぼ平行している。「松下村塾の大きさ」、「その創始者（吉田松陰ではないこと）」、「吉田松陰と松下村塾との関係」、「教育上の特徴」について段落を分けて説明している。

表題の左に、「国指定史跡」と「世界遺産」を加える。

表題について、福島（2015.7）、（2015.9）で提案しているが、「京都」「Kyoto」など一般的に定着しているもの以外、「おう」は“ou”と、「おお」は“oo”と表記する。Shoka Sonjuku private school は、日本語の建造物であるのでイタリック体を使用する。また、大きく分節すれば、「松下村・塾」となる、そして、「塾」が“private school”であることを明示し、本稿からは、2語以上で構成素を説明する場合の、“（ ）”中にもハイフンを入れ、“*Shoukason-juku (-private school)*”とする。

第一段落、文1の文頭の「松下村塾」を“*The Shoukason-juku*”と、表題で示したものに定冠詞を加える。米語綴りにし“*one-story*”とする。文2の「畳敷き」は、“*tatami floor*”とイタリック体を用いる。

第二段落の文4について、「吉田松陰」は、日本では「姓・名」の順であることが、国際的にも知られているので、“*Yoshida Shouin*”とする。福島（2015.7）、（2015.9）での提案に従い「おう」は“ou”と表記する。「吉田松陰の叔父玉木文之進」は、「玉木文之進」を中心とし、“*Tamaki Bun'noshin, Yoshida Shouin's uncle,*”とする。福島（2015.9）中の「関内（かんない）」の表記で提案したが、鼻音「ん」と「な行」を明確に区別するために、“*Bun'noshin*”と表記する。単に、“*the school*”とする。「その建物の現在の場所」の意味を明示し、“*from the building's current location*”とする。文5の「久保五郎左衛門」を“*Kubo Gorouzaemon*”とする。

第三段落文6の、年号「安政」は、江戸時代であることを明示する。福島（2016.7）2.2.3に従い、また、「江戸時代の終わり、安政4年である1857年11月5日に」とし、“*On November 5, 1857, the fourth year of the Ansei era during the end of the Edo-jidai [-period]*”とする。“*Yoshida Shouin*”とする。原文では、単に、「狭い空間」となる。「幽閉されていた空間」を「牢獄のようなところ」とし、“*the jail-like place*”とする。“*to its current location*”とする。文7も“*Shouin*”とする。「安政5年である1858年11月29日まで」“*until November 29, 1858, the fifth year of the Ansei era*”とする。

第四段落文8について、文1に従い、“*The Shoukason-juku*”とする。“(private school)”は省略する。「身分に関係なく決意と誇りをもつように若者を指導した。彼らは、明治時代の日本の産業革命化において重要な役割を演じた。」と簡略化し、“*The Shoukason-juku taught, regardless of their social status, the youths to have distinctive determination and pride. Afterwards, they played various important roles in the industrialization of Japan during the Meiji-jidai.*”

第五段落を設け、「松下村塾は、世界遺産一覧表に記載された明治日本の産業革命遺産の構成資産の一つである。」の内容を加える。「明治時代に活躍した多くの人物を輩出したから」と理由を明示する。

「世界遺産登録」の記述と、以上の「本文」の修正提案などを含めたものをまとめると、次の通りである。表題、「世界遺産登録」の記述を除いて210語に収めた。10のような画像を、人物をはずして添付する。

National Historic Site

World Heritage Site *Shoukason-juku* (-private school)

The *Shoukason-juku*, together with the *Hagi-hansharo* (-reverberatory furnace), the *Ebisugahana-zousenjo*[-shipyard]-*ato*[-site], the *Ooitayama-tatara-seitetsujo* [-ironworks]-*ato*, and the *Hagi-joukama-chi* (-castle town), forms a component of the World Heritage Site of the Hagi area.

The *Shokason-juku* is a small wooden one-story building with a tiled roof. Originally, the school building consisted of one classroom with a *tatami* floor of 8 mats (approximately 13㎡). Later, students helped to build an extension to the building, adding an area of 10.5 mats (approximately 17㎡).



Initially, Tamaki Bun'noshin, Yoshida Shouin's uncle, opened the school at his home, which was not far from the building's current location, and named the school the *Shoukason-juku*. Kubo Gorouzaemon took over the school and was involved in the education of young people.

On November 5, 1857, the fourth year of the *Ansei* era, during the end of the *Edo-jidai* [-period], 28-year-old Yoshida Shouin took over the school and transferred it from the jail-like place

in his uncle's house to its current location, where he gave lectures. He spent one year here with his students until November 29, 1858, the fifth year of the *Ansei* era.

The *Shoukason-juku* taught, regardless of their social status, the youths to have distinctive determination and pride. Afterwards, they played various important roles in the industrialization of Japan during the *Meiji-jidai*.

The *Shoukason-juku* is now registered as one of a series of properties that form a World Heritage Site because it produced those great people.

2. 2. 2 萩反射炉

12



13



福島 一人：観光英語（14）：島根県大田市、山口県萩市、福岡県宗像市の観光名所に見られる案内板の英語

画像 12 の「萩反射炉」は JR「ひがしはぎ」駅の北東、徒歩約 20 分にある。福島 (2016.7) で挙げた「葦山反射炉」に比べて、一対少なく、小さい。「葦山反射炉」の原文では “Nirayama Reverberatory Furnaces” とされていたが、「萩反射炉」では “Hagi Reverberatory Furnace” と単数にされている。

画像 13 の日本語及び英語説明は以下の通りである。これらは福島 (2017.1)、(2017.7)、(2018.1) で挙げた京都市の案内板の「世界遺産登録」の記述に続く「本文」に相当するものであろう。原文のふりがなは（ ）で表示する。アンダーラインは本稿執筆者による。

国指定史跡

指定年月日 大正 13 年 12 月 9 日

所有者 萩市

所在地 萩市椿東

萩反射炉（はぎはんしゃろ）

萩反射炉は、萩（長州）藩が海防強化の一環として、鉄製大砲を鑄造するために、安政 3 年（1856）に試作的に築造した金属熔解炉。しかし技術的にも費用的にも難しいことから、本式の反射炉の築造は断念した。

煙突部分は 8 m までは安山岩を用いて築いているが、先端の 2.5m は大きな煉瓦を使用している。全体の高さは 10.5m で、漆喰が石積みの全体に塗ってあったものと考えられる。

近世の反射炉でわが国に現存しているのは、静岡県の葦山と鹿児島県の集成館に築造されたものとこの 3 基だけである。わが国の産業史上、貴重な遺跡であるとともに、これによって萩（長州）藩の幕末における軍艦充実の熱意がうかがわれる。

英語説明は以下の通りである。表題を除いた本文は 3 段落 6 文、151 語からなる。※「長州」「Choshu」の “o” と “u” の上に長音を表す “—” が記されている。

文末の赤い数字、アンダーラインは、本稿執筆者による。

National Historic Site Hagi Reverberatory Furnace

Hagi Reverberatory Furnace is a metallurgical furnace built as an experiment in 1856 by Hagi (Chōshū) Domain to cast iron cannons as part of the reinforcement of coastal defence.¹ However, the Domain suspended the construction of a full scale reverberatory furnace indefinitely due to technical and financial difficulties.²

The lower 8m of the chimney are constructed of andesite, while the uppermost 2.5m is made of large bricks.³ The total height is 10.5m, and it is believed that all exposed masonry used to be covered with plaster.⁴

It is one of only three extant reverberatory furnaces in Japan today; the other two are at Nirayama in Shizuoka Prefecture, and Shūseikan in Kagoshima Prefecture.⁵ It is a valuable site in regards to the industrial history of Japan, and allows us to better understand the zeal with which the Hagi (Chōshū) Domain attempted to improve their armaments in the last days of feudal government.⁶

段落の始め、別段落となる場合、3 文字分スペースを空けるべきで。

表題の「国指定史跡」にさらに、「世界遺産」を加える。「萩反射炉」は、“*Hagi-hansharo (-reverberatory furnace)*” を提案する。

第一段落、文 1 について、“*The Hagi-hansharo is*” とする。「萩」と「長州」は交換可能である。「長

州藩」という名称の方がよく知られているが、萩に存在するので、「萩」を先に記したと思われる。そして、「萩藩」とも「長州藩」とも言える」は“*the Hagi [Choushu]-han [-domain]*”とする。日本語説明は、交換可能部分が 2 語以上のため、「萩（長州）藩」のままとする。文 2 について、“*the Hagi-han*”と「萩藩」を明示する。

第二段落の文 3 について、“are”は文法的な誤りである、“*The lower 8m of the chimney is*”とすべきである。

第三段落の文 5 について、主語を代名詞ではなく、“*The Hagi-hansharo*”と明示する。葦山反射炉や集成館の細かい説明を加えるわけではないので、「... 静岡県の葦山反射炉、鹿児島県の集成館反射炉とともに ...」“*The Hagi-hansharo is one of the three extant reverberatory furnaces , along with the Nirayama-hansharo in Shizuoka Prefecture and the Shuuseikan-hansharo in Kagoshima Prefecture.*”と簡略化する。^{註5)} 文 6 について、“...Japan, and allows us to better understand...”は、“...Japan. We can understand better the zeal...”とし、文として独立させる。「幕末」は「江戸時代末期」と具体的に記し、“*during the last days of the Edo-jidai[-period]*”とする。

第四段落を設け、「萩反射炉は、世界遺産一覧表に記載された明治日本の産業革命遺産の構成資産の一つである。」の内容を加える。

「世界遺産登録」の記述と、以上の「本文」の修正提案などを含めたものをまとめると、次の通りである。表題、「世界遺産登録」の記述を除いて 168 語に収めた。12 のような画像を、人物をはずして添付する。

National Historic Site

World Heritage Site

Hagi-hansharo (-reverberatory furnace)

The Hagi-hansharo, together with the Shoukason-juku (-private school), the Ebisugahana-zousenjo[-shipyard]-ato[-site], the Ooitayama-tatara-seitetsujo [-ironworks]-ato, and the Hagi-joukamachi (-castle town), forms a component of the World Heritage Site of the Hagi area.

The Hagi-hansharo is a metallurgical furnace built as an experiment in 1856 by the Hagi

[Choushuu]-han [-domain] to cast iron cannons as part of the reinforcement of coastal defence. However, the Hagi-han suspended the construction of a full scale reverberatory furnace indefinitely due to technical and financial difficulties.

The lower 8m of the chimney is constructed of andesite, while the uppermost 2.5m is made of large bricks. The total height is 10.5m, and it is believed that all exposed masonry used to be covered with plaster.

The Hagi-hansharo is one of the three extant re-



福島 一人：観光英語 (14)：島根県大田市、山口県萩市、福岡県宗像市の観光名所に見られる案内板の英語

verberatory furnaces , along with the *Nirayama-hanshoro* in Shizuoka Prefecture and the *Shuuseikan-hanshoro* in Kagoshima Prefecture. It is a valuable site in regards to the industrial history of Japan. We can understand better the zeal with which the *Hagi-han* attempted to improve their armaments during the last days of the *Edo-jidai*[-period].

The *Hagi-hanshoro* is now registered as one of a series of properties that form a World Heritage Site in the industrialization of Japan.

2. 3 宗像市の世界遺産宗像大社

14



15



画像 14 は、「宗像大社辺津宮」の第一駐車場近くに見られる案内板である。「世界遺産登録」の記述が多くを占める。現地在、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」として 2017 年 7 月に登録された世界文化遺産の構成資産の一つとされている、と記されている。

画像 15 は、「宗像大社辺津宮」の「本殿」(右)と「拝殿」(左)である。「本殿」と「拝殿」が T 字状に隣接している。「伊勢方式」の建築様式と言えよう。これらは、国の重要文化財に指定されており、「辺津宮」で最も有名な建造物である。

14 の記述は以下の通りである。原文の表題は縦書きである。「世界遺産登録」に関する第一段落は、福島 (2017.1)、(2017.7) などの、京都市の世界遺産指定された観光名所のものと、文体は異なるが記載内容はほぼ同じである。英語説明の各段落始めは、3 文字分スペースを空けるべきである。英語説明の原文中のアンダーライン、赤い数字は本稿執筆者による。

世界遺産

「神宿る島」宗像・沖の島と関連遺跡群
宗像大社辺津宮

「神宿る島」宗像・沖の島と関連遺産群は、全人類の利益のために保護されるべき顕著な普遍的な価値をもつ文化遺産として、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」による世界遺産一覧表に記載されています。

本遺産群は、古代から現在まで発展し、継承されてきた神聖な島を崇拝する文化的伝統の希有な物証です。航海安全に関わる古代祭祀のあり方を物語り、4 世紀から 9 世紀の間の東アジア諸国間の重要な交流を示します。

宗像大社辺津宮は、古代祭祀遺跡に関連づけられる、宗像三女神をまつる生きた信仰の場です。

The Sacred Island of Okinoshima and Associated Sites in the Munakata Region has been inscribed on the World Heritage List of the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage.¹ Inscription on this List confirms the Outstanding Universal Value of a cultural property that deserves protection for the benefit of all humanity.²

This property is an exceptional example of the cultural tradition of worshipping a sacred island, as it has evolved and been passed down from ancient times to the present.³ Bearing witness to early ritual practices associated with maritime safety, its component sites illuminate important exchanges that took place among various polities in East Asia from the fourth to the ninth centuries CE.⁴

Hetsu-miya, one of the three shrines of Munakata Taisha, is a living place of worship that is linked to ancient ritual sites dedicated to the Three Female Deities of Munakata.⁵

原文の日本語説明と英語説明は内容が一致する。共に、第一段落は「世界遺産登録」、第二段落は「世界遺産登録の理由」を記している。「世界遺産登録」に関する記述が多くを占め、現地「宗像大社辺津宮」の記述は僅かである。英語説明では、全体でも、3 段落 5 文、147 語と少なく、現地の記述は、第三段落の文 5 のみである。

本稿では日本語説明、英語説明共に、加筆を試みる。

16



17



18



19



原文では、「宗像大社辺津宮」境内に見られる、見所の記述がまったく存在しない。画像 15 の「本殿」、「拝殿」の他に、「高宮祭場」、「第二宮・第三宮」の分社が重要である。これらについて加筆することを提案する。

画像 16, 17 の「高宮祭場」、画像 18, 19 の、「第二宮・第三宮」の分社について、概略する。

画像 16 は、「本殿」、「拝殿」と共に、見所とされる「高宮祭場」である。毎月祭祀が行われている。「高宮祭場」は、沖ノ島と並び、我が国の祈りの原型を現在まで伝えており、全国でも珍しい。17 は 16 の内部の画像であり、社殿が建てられるようになる以前の祭祀様式を継承している。

画像 18 には、2 つの社殿が見られる。これらは、沖合にある「第二宮」の「沖津宮」、「第三宮」の「中津宮」の分社である。二社の分社が並んで、「宗像大社辺津宮」境内に存在する。19 は「第二宮」の画像である。画像 15 のものと同様、「伊勢方式」の建築様式と言えよう。これら分社に詣れば、沖合の二社を参拝したのと同じ御利益があると信じられてきている。

以上の内容も含め、「世界遺産登録」の記述に続く「本文」として、日本語説明、英語説明を提案する。段落始めは、日本語説明の場合 1 文字分、英語説明の場合 3 文字分スペースを空ける。

原文 1 の「世界遺産登録」の記述について、福島 (2017.1)、(2017.7)、(2018.1) で挙げたものに文体を合わせる。「「神宿る島」宗像・沖の島と関連遺産群」が世界遺産登録された一つの集合体である。それを明示するために引用符を加える。動詞は単純現在を使用する。原文 2 のアンダーライン部は “people all over the world” と平易にする。

“Okino-shima, the Sacred Island, and Associated Sites in the Munakata Region” is now inscribed on the World Heritage List, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is internationally recognized as a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

「世界遺産登録」の記述に続く、「本文」の日本語説明について、「宗像大社辺津宮」境内に設置された他の案内板などを参考にして、以下を提案する。

宗像大社は、古代から現在まで発展し、継承されてきた神聖な島を崇拝する文化的伝統の稀な例であります。航海の安全に関わる古代祭祀のあり方を物語り、4 世紀から 9 世紀にかけての東アジア重要な交流を示します。

宗像大社は、第一宮、第二宮、第三宮とも呼ばれる「辺津宮（へつみや）」、「沖津宮（おきつみや）」、「中津宮（なかつみや）」から成ります。

第二宮と第三宮は、沖合の沖ノ島、大島にあり、それぞれ「古代三女神」の長女神、次女神を祀っております。

ここ陸地にある「辺津宮」は、三女（末娘）神を祀っていますが、宗像大社の総社です。境内には「本殿」、「拝殿」、「高宮齋場」などがあります。

「本殿」と「拝殿」は隣接しており、それらは 1557 年に焼失しました。「本殿」は 1578 年に、「拝殿」は 1590 年に再建されました。

「高宮祭場」は、日本古来の祭祀様式をいまだに保持する数少ない場所の一つです。

境内には、第二宮と第三宮の分社もあります。それらに詣れば、沖合の 2 社に参拝するのと同じ御利益があると信じられてきています。

本殿と拝殿は国の重要文化財に指定されています。

日本語説明に合わせた英語説明は以下の通りである。「世界遺産登録」の記述の後に「本文」として続けることを提案する。「本文」の語数は 262 語である。

福島 (2017.9) で提案した最多語数 250 語をやや超えてしまった。現地、「宗像大社辺津宮」だけでなく沖合の島や宗教面にまで言及しなければならなかったことによる。15、17、18 のような画像を、人物をはずして添付する。

“the *Munakata-taisha* (-grand shrine)” について、“grand shrine” は “-*taisha*” の説明であるので “(-grand shrine)” とする。“the *Takayama-saijou* (-place for ritual ceremony)” も同様である。“the *Daiichi-guu* (first shrine)” など名詞句全体を 2 語以上 () で説明する場合や、一語を複数語で説明する場合、ハイフンを使用しない。

The *Munakata-taisha* (-grand shrine) is a rare example of the cultural tradition of worshipping a sacred island, which has evolved and has been handed down from ancient times to the present. You can see early ritual practices of praying for maritime safety, and important exchanges that took place among various polities in East Asia from the fourth to the ninth centuries CE.

It consists of the *Hets-miya* [-shrine] (head shrine), the *Okitsu-miya*, and the *Nakatsu-miya*., which are also called the *Dai-ichi-guu* (first shrine), the *Dai-ni-guu* (second shrine), and the *Daisan-guu* (third shrine).

The *Dai-ni-guu* and the *Dai-san-guu* are located on the islands, “*Okino-shima*” and “*Oo-shima*”, far out at sea. These shrines respectively enshrine the oldest sister, and the second sister of the ancient “Three Female Deities.”

The *Hets-miya*, here on land, enshrines the youngest sister, but is the *Sou-sha* (leading shrine) of the *Munakata-taisha* complex. In the precincts, there are the *Hon-den* (main shrine), the *Hai-den* (outer

福島 一人：観光英語（14）：島根県大田市、山口県萩市、福岡県宗像市の観光名所に見られる案内板の英語

shrine), the *Takayama-saijou* (-place for ritual ceremony), and others.

The *Hon-den* and the *Hai-den* are the combined structures. They were burned down in 1557. The *Hon-den* was reconstructed in 1578, and the *Hai-den* in 1590.

The *Takamiya-saijou* is one of the few sites which still maintain the original worshipping style of Japan.

There are also two branch shrines of the *Daini-guu* and the *Daisan-guu* in the precincts. It has always been believed that visiting them was as good as praying at the shrines far out at sea.

The *Hon-den* and the *Hai-den* are designated as national important cultural properties.

Hon-den (right building) & *Hai-den* (left building)



Takamiya-saijou



Branch Shrines, *Daini-guu* (right building), *Daisan-guu* (left building)



3. おわりに

以上、「世界遺産」に登録されている、中国地方の「石見銀山」、「松下村塾」、「萩反射炉」、そして、九州の「宗像大社」の案内板について検討を加えた。案内板の画像は2017年12月以後に執筆者自身が撮影したものである。

「石見銀山」は知名度が高い。しかし、出発点として有名な「石見銀山公園」には「石見銀山遺跡案内図」は見られるが、「石見銀山遺跡」の総合説明が記載された案内板は見られなかった。本稿では、案内図に加えるか、あるいは、併設すべき日本語説明及び英語説明の入った案内板の提案を行った。特に、重要な「売り」と思われる、「龍源寺間歩」、「大森町の町並」について言及した。

萩市の「松下村塾」、「萩反射炉」に見られる案内板には、京都市の「世界遺産登録」地と共通する「世界遺産登録」に関する記述のみを有する案内板が見られた。京都市の「世界遺産登録」に続く「本文」に相当するものは、独立した案内板が設置されていた。京都市の案内板のような「長過ぎる」と感じられるものはなかった。観光地の規模が小さいため、記述内容が多くなかったとも当然考えられるが、案内板の記述は「簡潔・明瞭」とするべき、ということを現地が理解しているためとも考えられる。

「宗像大社」には、「神宿る島」宗像・沖の島と関連遺跡群 宗像大社辺津宮」という案内板は見られたが、萩市の案内板と比べ、記述量が少ないように思えた。「世界遺産登録」についての記述が多くを占め、現地である「宗像大社辺津宮」の説明は少なかった。「宗像大社」を表題とした総合案内板を、福島(2017.1)、(2017.7)、(2018.1)で挙げた京都市のものに合わせ、「世界遺産登録」、「本文」という構成をとり、提案した。現地の見所である、「本殿」、「拝殿」、「高宮祭場」、「第二宮・第三宮の分社」についての記述も含めた。

尚、本稿から、日本語の名詞句構成素の英語表記について、2 語以上で構成素を説明する場合の、“()” 中にもハイフンを入れ、“*the Shoukason-juku (-private school)*” のように記すことを提案した。

本論文執筆にあたり、これまでと同様、提案した英語のネイティブチェックは David Martin 氏にお願いした。感謝したい。

註

- 1) 格調が高いことより、一般人が理解しやすいことや目立つことに重点を置き、綴字法などの規則性は一般文書ほど強くない。また、設置位置、色彩など、「視覚的認識の容易さ」も含まれる。「案内板」という点で、リーフレットやインターネットなどとは、異なり、語数に制約がある。また、現在でも、地方では外国語案内板の数は少ないようである。読賣新聞(2016.11.1)でも、訪日観光客が増加しているが、地方では外国語案内板の数が少ない旨、述べている。
- 2) 龍源寺間歩入り口近くの入場券売り場では、外国人の入場料は“Discounts available for international visitors”とし、具体的に金額は明記されていないが日本人の半額である。
- 3) 単に「石見銀山」の場合、地名、と考え、無冠詞とする。一方、「石見銀山遺跡」の場合は、「遺跡」という普通名詞との名詞句であるので、“*the*”をつける。
- 4) 部分的に加筆修正がされていると思われる。「松下村塾」、「萩反射炉」の案内板の画像は 2017 年 12 月に撮影した画像である。
- 5) ブリタニカ・ジャパン編(2013)によると、水戸にも反射炉の遺跡があるそうであるが、現地萩の案内板の文言に従う。

参考文献

- ブリタニカ・ジャパン編（2013）『ブリタニカ国際大百科事典』小項目電子辞書版 東京：ブリタニカ・ジャパン
- Costello R. B., edit. (1991) *Random House Webster's College Dictionary*, Random House, Inc., New York.
- 福島一人（2011.1）「観光英語（1）：国宝天守をもつ松本城の案内板の英語」『情報研究』第44号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2011.7）「観光英語（2）：国宝天守をもつ、松本城案内板の英語と比較した姫路城、彦根城、犬山城の案内板の英語」『情報研究』第45号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2012.7）「観光英語（3）：重要文化財の天守を有する備中松山城、丸亀城、高知城、弘前城の案内板の英語」『情報研究』第47号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2013.1）「観光英語（4）：重要文化財の天守を有する丸岡城の案内板の英語」『情報研究』第48号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2014.1）「観光英語（5）：重要文化財の天守を有する宇和島城、伊予松山城、松江城の案内板の英語」『情報研究』第50号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2014.7）「観光英語（6）：世界遺産に登録されている広島県宮島の案内板の英語」『情報研究』第51号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2015.1）「観光英語（7）：日本の城郭などに見られる英語案内板の表記内容再検討と綴字についての提案」『情報研究』第52号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2015.7）「観光英語（8）：神奈川県の名所鎌倉に見られる案内板の英語」『情報研究』第53号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2015.9）「案内板における日本の固有名詞などの英文字表記」『日本実用英語学会論叢』第21号、東京：日本実用英語学会
- （2016.1）「観光英語（9）：神奈川県の観光名所、三溪園、江の島などに見られる案内板の英語」『情報研究』第54号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2016.7）「観光英語（10）：神奈川県と静岡県観光名所、箱根、静岡、浜松、伊豆などに見られる案内板の英語」『情報研究』第55号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2017.1）「観光英語（11）：京都市の観光名所、清水寺、鹿苑寺、慈照寺に見られる案内板の英語」『情報研究』第56号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2017.7）「観光英語（12）：京都市の観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる案内板の英語」『情報研究』第57号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- （2017.9）「国内観光地の総合案内板の英語についての問題点：文法、記述順を中心に」『日本実用英語学会論叢』第23号、東京：日本実用英語学会
- （2018.1）「観光英語（13）：観光名所、二条城、延暦寺、天橋立、鳥取砂丘に見られる案内板の英語」『情報研究』第58号、茅ヶ崎：文教大学情報学部
- 市川繁治郎他編（福島一人他執筆）（1995）『新編英和活用大辞典』、東京：研究社
- 石井隆之（2009）『日本の都道府県の知識と英語を身につける』、東京：ベレ書房
- 京都府ホームページ「世界文化遺産 古都京都の文化財一覧」（オンライン）、入手先（<http://www.pref.kyoto.jp/isan/>）（2016.07.05 参照）

- 国土交通省 観光庁 (2014.3)「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(オンライン)、入手先 (<http://www.mlit.go.jp/common/001029742.pdf>) (2016.03.03 参照)
- 文部科学省 「ローマ字のつづり方」(オンライン)、入手先 (http://www.mext.go.jp/b_hakusho/nc/k19541209001/k19541209001.html) (2014.10.15 参照)
- NAVER まとめ 「正しく知っておきたい「ヘボン式ローマ字」の基礎知識」(オンライン)、入手先 (<http://matome.naver.jp/odai/2138576450486274401>) (2014.10.15 参照)
- 新村出編 (2008)『広辞苑』第 6 版、東京：岩波書店
- スクリーチ・タイモン、プライス・マーガレット、大島 明他編 (1999)『トレンド英語日本図解辞典』、東京：小学館
- 柴田正昭 (2010)『外国人のためのローマ字日本語辞典』第三版、東京：東京堂
- 篠田義明 (1989)『アメリカ英語最新ビジュアル辞典』東京：研究社
- (2014)『ICT時代の英語コミュニケーション：基本ルール』東京：南雲堂
- 竹林 滋他編 (2002)『研究社 新英和大辞典』第 6 版、東京：研究社
- 渡邊敏郎他編 (2003)『研究社 新和英大辞典』第 5 版、東京：研究社
- Wikipedia, the free encyclopedia “Iwami Ginzan Silver Mine” Retrieved February 13, 2018.